

アイティ豊岡都市開発 株式会社

決算書類

第27期

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

1. 事業の概要

今期最大の出来事は年明け早々の能登半島地震の発生と翌日に起こった航空機衝突事故といえます。

地震については被害の程度も大きく家屋倒壊が目立つ阪神淡路大震災を彷彿させる状況でした。その後も全国各地で大きな地震が発生しており、当地方も北但大震災から 99 年の目を迎えていることからその影響に関心が向いている状況で、備えの強化が言われるところです。

世界に目を向けますと 3 年目に入ったロシアウクライナ侵攻に加え 2023 年 10 月にはパレスチナガザ地区においてハマスの侵攻が起き、大きな火種になり、多くの人が人質に取られるなど混迷をきたしています。相手となるイスラエルも手を緩めることなく応戦していることからガザ地区の混迷度は増す一方で、現時点においても解決の方策は見えておらず、ウクライナ紛争ともども先の見えない闘いが続いています。世界情勢で日本に大きな影響を与えているのが円安の問題です。150 円を優に突破してこれまでにないところまで及びそうな状況から日銀の介入等予断を許さない状況が続いています。一方で株価の高騰がこれまでにない価格をつけており、金融不安なのか金相場も高騰しています。実生活についてはこれら経済状況の高騰を受けているのか物価高が続いており、実質賃金の低下が取り沙汰され、今期春闘においては初任給賃上げが大きく扱われベアにおいても満額回答の企業が増えているようですが、上がらないところもあって、明暗の分かれた状況が出ています。

アイティでは昨年 1 月 8 日に立体駐車場の ALC 版が剥落するという事故が発生いたしました。原因は、立体駐車場西面に対する風雨、駐車場に散布する融雪剤の塩分など ALC 版の固定アングルに腐食を及ぼすものの浸透による経年劣化と考え、ALC 版剥落対策工事として ALC 版の撤去を急ぎ、並行して鉄骨の劣化調査を進めました。外壁は管理組合の所管ですが、駐車場の内面は当社の所管で近隣に類例の少ない特殊事情によることから塗料の種類、補修の方法など熟考を重ねて、今後の腐食に対抗でき、長年の風雨に耐えられる工法を模索しました。想定以上に腐食が進んでいるところも多く、ケレン等の補修をした上で鉄骨の塗装を行うなど特異な工事で長期間にわたりましたが修復を終えました。この事故については事故発生を厳粛に受け止め今後の管理に努めたいと考えています。

2 年目に入った「わっくとよおか」は子育て支援の総合拠点施設として子育て全体の支援を進めて参りました。当社が指定管理者を務める「わっくとよおかこども広場」は昨年を上回る入場者で 4 万人を超えました。市民交流広場は子育てママさんの集いの場であったり高校生の集い場所となり、新しい交流ゾーンとして多くの方々に利用いただいています。また、子育てのお母さん方の悩み事相談では保健師が中心となって子育てなんでも相談室が悩み相談を受け、ファミリーサポートセンターがファミリー全体の支援を行うなど連携を図った動きもうまれています。7 階には「こども支援センター」が配置され、就学支援とも連携を図る運営ができるようになりました。直接的な交流ではありませんが、乳幼児から高齢者までが滞留する異年齢間交流などが行われる特異なゾーンとなっています。特に交流ゾーンの市民交流広場では平日だけですがカフェもオープンし、交流の幅を広げています。

また、今期の最終月でしたが、みなと銀行様が 3 階に出店され、新たなページが生まれました。

さとう様の文化教室等があったところに旧店舗を閉めて移動して来られたもので、館内にはこれまで市内金融機関四行の ATM がありましたが、金融機関の支店そのものが入店されるのは初めてのことで、商業店舗と違った環境変化に注目いたしますとともに経済動向について示唆があればと考えています。

4年に渡った新型コロナウイルスは5月に5類感染症へ移行してインフルエンザなどの感染症と同じ扱いになり、外出規制などを求められることもなく、幅広い医療機関での受診など大きく緩和され、マスクの着用なども個人に委ねられる状況となりました。長期間にわたった自粛生活から解放され、当館への来館者や、駅前駐車場の利用者も増加し戻りつつある状況です。

駐車場関係では、コロナの5類感染症移行を受けて大きく回復すると考えていましたが、地域にあつては実際の感染者は減少していても罹患に対しての警戒心から人の集まるところには行かないなど人出の戻りは鈍い状況にあつてアイティ駐車場については微減傾向で伸び悩んだと思われます。

駅前駐車場は、周辺地域の状況を見ると観光芸術文化専門職大学の学生数の増加、演劇等の催事活動の活発化などから増加傾向を示し一昨年を上回る台数となりました。

両駐車場の状況は、対局の状況を示すこととなり、アイティでは館内滞留時間の減少が見られ、駅前駐車場では、駅利用や周辺施設の利用による利用者の増加が見られ回復傾向を示したものと分析しています。

駐車場利用促進は定期駐車増と一般利用増も視野に入れ宣伝広告やサービス向上を継続して行ってきました。アイティ、駅前駐車場ともに移動はあるものの定期契約者は横ばい傾向となりました。アイティ駐車場の今期利用台数は572,365台(1日平均1,577台)の利用で、年間で2,752台の減少、1日平均台数、年間台数の前期対比では減少傾向となりました。

売上については前年比0.2%増となっています。コロナ感染症は5月に5類感染症に移行はしましたが、移行後はインフルエンザも加わり、収束することなく罹患者が増えたことから出控え傾向はかわらずということもあり売上金額は1億2,040万円(前年1億2,015万円)となりました。

27期はコロナの5類感染症移行で環境変化はあったもののインフルエンザなどの感染症が蔓延したこと、立体駐車場外壁改修工事により1年以上覆いを被った状況で利用される方も閉塞感などから利用を避けられて減少したとも予想されるところです。

駅前駐車場の一般・定期利用の売上は1,227万円(前期977万円)となり前期対比は250万円増加し、利用台数では61,663台(前期57,777台)で前期6.7%増となりました。

5月の新型コロナウイルス感染症の「5類」移行により出張、旅行等JR利用者の動きの活発化による利用者増また、観光芸術文化専門職大学の学生数増加により活動の活発化などで駐車場利用にも影響が出てきたものと思われます。

これらを含めた総売上額は1億8,584万円(前期1億8,174万円)を計上し、経常利益は1,346万円(前期2,389万円)、税引後当期純利益は1,954万円(前期1,709万円、前年度対比214.3%)、利益剰余金は3,159万円になりました。今期については立体駐車場外壁修繕、鉄骨補強補修工事により損失が出る決算となりました。今後においても安全、安心な施設にご来館いただけることと広範囲に渡る地域からの来館いただけるよう努力したいと存じます。

最後になりますが、会社の再建とともに今回の事故の教訓として安全・安心が施設にとって最重要課題であることを再認識いたしました。これまで積み重ねてきた施設設備の安全確保、防災機器等の計画的更新なども最重要課題と認識し、「安心・安全」をしっかり確保できるよう取組を進めたいと考えます。

27年を迎え、核店舗、専門店、行政機関、各金融機関の皆さまにご協力・ご支援を賜わり、さらなる努力を重ねこれまで以上に健全経営に取り組んでいかねばなりません。行政当局をはじめ、関係各機関並びに株主各位の皆様のご指導とご鞭撻を切にお願いいたします。第27期の事業報告といたします。

2. 会社の現況

(1) 資本金の推移

	当 期 末	前 期 末
資 本 金	1億81百万円	1億81百万円

(2) 株式の状況

発行可能株式総数	13,000株
発行済株式の総数	3,620株

(3) 株 主 数 32名 (令和6年3月31日現在)

(5) 取締役及び監査役の氏名・会社における地位、又は職業

(令和6年3月31日現在)

氏名	職名	主な職業
井上 隆俊	代表取締役	
土生 田 哉	取締役	豊岡市 副市長
岡部 一志	取締役	㈱さとう 調査役
澤田 秀夫	取締役	豊岡市 都市整備部長
和田 芳明	取締役	アイティ管理組合法人 理事長
藤原 紘道	監査役	㈱藤 代表取締役

*上記役員は令和6年3月31日現在の役員で、その後3月31日付をもって取締役 澤田秀夫が辞任しております。

(6) 従業員の状況

(令和6年3月31日現在)

区 分		期 別	当 期 末	前 期 末
従 業 員 数			21	21
男 性	正社員		3	3
	嘱託社員		1	1
	アルバイト社員		1	—
女 性	嘱託社員		1	1
	臨時社員		1	1
	アルバイト社員		14	15
平 均 年 齢			31.0 歳	32.5 歳
男 性	正社員		42.3	41.3
	嘱託社員		27.0	26.0
	アルバイト社員		20.0	—
女 性	嘱託社員		43.0	42.0
	臨時社員		38.0	37.0
	アルバイト社員		31.6	30.3
平 均 給 与 月 額			94 千円	109 千円
男 性	正社員		363	352
	嘱託社員		199	187
	臨時社員		32	—
女 性	嘱託社員		241	234
	臨時社員		200	166
	アルバイト社員		42	43

注1. 平均年齢及び平均給与月額は、単位未満の端数を切り捨てて表示しています。正社員には、出向社員も含めています。

貸借対照表

アイティ豊岡都市開発株式会社

令和 6年 3月31日 現在

単位：円

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 191,111,516】	【流 動 負 債】	【 215,538,569】
現 金	3,559,403	短 期 借 入 金	60,800,400
預 金	170,215,750	未 払 金	152,748,005
売 掛 金	12,059,693	未 払 法 人 税 等	167,500
貯 蔵 品	1,317,140	前 受 金	1,773,664
立 替 金	24,230	仮 受 金	8,000
未 収 還 付 法 人 税 等	3,229,200	預 り 住 民 税	41,000
未 収 還 付 消 費 税 等	706,100	【固 定 負 債】	【 1,615,645,600】
【固 定 資 産】	【 1,852,670,014】	長 期 借 入 金	1,015,645,600
(有 形 固 定 資 産)	(1,752,466,443)	受 入 保 証 金	600,000,000
建 物	773,185,840	負 債 合 計	1,831,184,169
建 物 附 属 設 備	9,821,088		
構 築 物	365,701		
工 具 器 具 備 品	2,234,074		
土 地	966,859,740		
(無 形 固 定 資 産)	(111,696)		
電 話 加 入 権	111,696		
(投 資 そ の 他 の 資 産)	(100,091,875)		
出 資 金	10,000		
保 険 積 立 金	2,400,000		
修 繕 積 立 金	97,681,875		
【繰 延 資 産】	【 8】		
繰 延 資 産	8		
資 産 合 計	2,043,781,538	純 資 産 合 計	212,597,369
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	2,043,781,538

損益計算書

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

単位：円

科 目	金 額	金 額
【売 上 高】		
駐 車 場 売 上 高	132,683,210	
業 務 受 託 売 上 高	28,426,052	
手 数 料 売 上 高	287,744	
こども広場等売上高	24,452,618	185,849,624
売 上 総 利 益 金 額		185,849,624
【販 売 費 及 び 一 般 管 理 費】		168,706,236
営 業 利 益 金 額		17,143,388
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息 配 当 金	400	
雑 収 入	2,019,723	2,020,123
【営 業 外 費 用】		
支 払 利 息		5,702,702
経 常 利 益 金 額		13,460,809
【特 別 損 失】		
特 別 修 繕 費		32,671,369
税 引 前 当 期 純 損 失 金 額		△19,210,560
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		335,081
当 期 純 損 失 金 額		△19,545,641

販売費及び一般管理費

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

単位：円

科 目	金 額
役 員 報 酬	3,600,000
給 与 手 当	22,527,736
賞 与	4,114,079
給 与 負 担 金	7,527,963
法 定 福 利 費	3,540,694
福 利 厚 生 費	514,052
旅 費 交 通 費	26,328
通 信 費	1,519,531
交 際 費	31,160
減 価 償 却 費	34,161,497
リ ー ス 料	456,000
保 険 料	1,186,946
修 繕 費	14,919,600
水 道 光 熱 費	4,502,174
事 務 用 品 費	456,673
消 耗 品 費	2,689,335
租 税 公 課	29,515,900
警 備 費	381,600
保 守 点 検 料	2,089,900
業 務 委 託 費	12,089,535
広 告 宣 伝 費	348,674
支 払 手 数 料	217,220
諸 会 費	9,460
地 代 家 賃	768,996
会 議 費	10,836
新 聞 図 書 費	41,949
共 益 費	21,295,944
販 売 促 進 費	130,460
雑 費	31,994
合 計	168,706,236

株主資本等変動計算書

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

単位：円

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		その他利益剰余金	利益剰余金合計		
		繰越利益剰余金			
当期首残高	181,000,000	51,143,010	51,143,010	232,143,010	232,143,010
当期変動額					
当期純損失		△19,545,641	△19,545,641	△19,545,641	△19,545,641
当期変動額合計	-	△19,545,641	△19,545,641	△19,545,641	△19,545,641
当期末残高	181,000,000	31,597,369	31,597,369	212,597,369	212,597,369

個別注記表

アイティ豊岡都市開発株式会社

自 令和 5年 4月 1日

至 令和 6年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準及び評価方法

◎棚卸方法 実地棚卸の方法によっています。

◎評価基準 最終仕入原価法による原価法に基づく低価法によって評価しています。

固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しています。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しています。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しています。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜処理を採用しています。

貸借対照表等に関する注記

減価償却累計額の金額

有形固定資産の減価償却累計額 1,145,853,218円

株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

前期末株式数（発行済普通株式）	3,620株
当期増加株式数（発行済普通株式）	0株
当期減少株式数（発行済普通株式）	0株
当期末株式数（発行済普通株式）	3,620株

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの情報

一株当たりの純資産額	58,728.55円
一株当たりの当期純利益	△5,399.34円